【随筆を読もう「徒然草」】序段

保存版

二年　組　番　氏名（　　）

音読回数チェック欄　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

つれづれなるままに、（　　）日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、（由無し事）そこはかとなく書きつくれば、（　　）（　　）あやしうこそものぐるほしけれ。

これといってすることのない退屈なまま、（一日中、朝から晩まで）、すずりに向かって心にうつっては消え、消えては浮かぶ（　　）を、とりとめもなく書きつけていると、自分が正気かどうかさえあやしく、もの狂おしい気持ちになってくるものだ。

一　歴史的仮名遣いの直し方を参考にしながら、青い字を現代仮名遣いに直そう。

① ゐ→い　ゑ→え　を→お

・まゐる→ま（　　）る　・こゑ（声）→こ（　　）

② ぢ→じ　づ→ず

・ふぢ（藤）の花→ふ（　　）の花

③ 語頭以外のハ行→ワ行・ア行

・ものぐるほし→ものぐる（　　）し

・むかひて→むか（　　）て

④ ア段＋ふ（う）→オ段＋う

⑤ イ段＋ふ（う）→イ段＋ゆう

・あふみ（近江）→（　　）み

・かなしう（悲しう）→かな（　　）

・あやしう→あや（　　）

⑥ エ段＋ふ（う）→イ段＋ょう

・けふ（今日）→きょう

二　次の古語の意味をしっかり覚えよう

① よしなしごと

【覚え方】「よし」は漢字で書くと「由」。由無し事→意味のないこと→つまらないこと。どうでもよいこと

② そこはかとなく→とりとめもなく

③ あやしう→不思議に、疑わしく、あやしく

④ ものぐるほし→（普通の精神状態ではなく）何となく異常だ、気がおかしくなっている

【随筆を読もう「徒然草」】序段

練習問題　　二年　　組　　番　　氏名（　　）

音読回数チェック欄　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

つれづれなるままに、

④意味　　①（　　）

日暮らし、硯に向かひて、

⑤意味

心にうつりゆくよしなしごとを、

（由無し事）

そこはかとなく書きつくれば、

②（　　）　　③（　　）

あやしうこそ　ものぐるほしけれ。

これといってすることのない退屈なまま、

④（　　）、

すずりに向かって

心にうつっては消え、消えては浮かぶ

（⑤　　）を、

とりとめもなく書きつけていると、

自分が正気かどうかさえあやしく、疑わしい気持ちになってくるものだ。

一　歴史的仮名遣いの直し方を参考にしながら、青い字を現代仮名遣いに直そう。

①　ゐ→い　　ゑ→え　　を→お

・まゐる→ま（　　）る　　・こゑ（声）→こ（　　）

②　ぢ→じ　　づ→ず

・ふぢ（藤）の花→ふ（　　）の花

③　語頭以外のハ行→ワ行・ア行

・ものぐるほし→ものぐる（　　）し

・むかひて→むか（　　）て

④　ア段＋ふ（う）→　オ段＋う

⑤　イ段＋ふ（う）→　イ段＋ゆう

⑥　エ段＋ふ（う）→　イ段＋ょう

・あふみ（近江）→（　　）み

・かなしう（悲しう）→かな（　　）

・あやしう　→あや（　　）

・けふ（今日）→きょう

二　次の古語の意味をしっかり覚えよう

①　よしなしごと

【覚え方】「よし」は漢字で書くと「由」。

由無し事→意味のないこと→つまらないこと。どうでもよいこと

②　そこはかとなく→とりとめもなく

③　あやしう→不思議に、疑わしく、あやしく

④　ものぐるほし→（普通の精神状態ではなく）何となく異常だ、気がおかしくなっている

一　歴史的仮名遣いの直し方を参考にしながら、青い字を現代仮名遣いに直そう。

①　ゐ→い　　ゑ→え　　を→お

・まゐる→ま（　　）る　　・こゑ（声）→こ（　　）

②　ぢ→じ　　づ→ず

・ふぢ（藤）の花→ふ（　　）の花

③　語頭以外のハ行→ワ行・ア行

・ものぐるほし→ものぐる（　　）し

・むかひて→むか（　　）て

④　ア段＋ふ（う）→　オ段＋う

⑤　イ段＋ふ（う）→　イ段＋ゆう

⑥　エ段＋ふ（う）→　イ段＋ょう

・あふみ（近江）→（　　）み

・かなしう（悲しう）→かな（　　）

・あやしう　→あや（　　）

・けふ（今日）→きょう

二　次の古語の意味をしっかり覚えよう

①　よしなしごと

【覚え方】「よし」は漢字で書くと「由」。

由無し事→意味のないこと→つまらないこと。どうでもよいこと

②　そこはかとなく→とりとめもなく

③　あやしう→不思議に、疑わしく、あやしく

④　ものぐるほし→（普通の精神状態ではなく）何となく異常だ、気がおかしくなっている

☆　赤い文字の意味を、下段の「現代語訳」から抜き出し、意味を理解しよう。

①日暮らし→（　　）

②よしなしごと→（　　）

③そこはかとなく→（　　）

④あやし→（　　）

⑤ものぐるほし→（　　）

☆　作者　兼好法師は、どんな状況で、どんな対象を、どんな態度で書いているか。

☆

【徒然草】　五十二段　【仁和寺にある法師】

二年　組　番　氏名（　　）

仁和寺にある法師、

日年寄るまで、石清水を拝まざりければ、

心憂く覚えて、

ある時思ひ立ちて、

ただひとり　徒歩（かち）より　詣（まうで）　でけり。

極楽寺・高良などを拝みて、

かばかりと心得て　帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、

仁和寺に（　　）法師□

（　　）、

京都府にある石清水八幡宮を

「年ごろ　思ひつること、

果たしはべりぬ。

聞きしにも過ぎて、

尊くおはしけれ。

そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、

何事かありけん、ゆかしかりしかど、

神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」

とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしことなり。

☆　歴史的仮名遣い（青い文字）を現代仮名遣いに直し、行の切れ目を意識しながら音読しよう。

☆　赤い文字の意味を、下段の「現代語訳」から抜き出し、意味を理解しよう。

①心憂く（終止形　心憂し）→（　　）
②思ひ立ち→（決心をして、一大決心をして）
③徒歩→（　　）
④かたへの人→（　　）
⑤ゆかし→
⑥本意なれ→（　　）
⑦先達→（　　）

☆1　ある仁和寺の法師は若いか、結構な年か。

→古語では何と書かれているか。

☆2　この法師は、何をしたことがなかったのか。

☆3　石清水八幡宮とは、どんな神社か。（資料　参照）。

☆4　ある仁和寺の法師は、どのような様子で、石清水八幡宮に出かけたか。

・ある時、一大決心をして（ある時思ひ立ちて）
・徒歩で
　＊みんなは牛車や舟で行った
・ひとりで

☆5　どんな様子でお参りして、どこをお参りして帰ったか。

◎　ある仁和寺の法師は、どんな失敗をしたのか。　　根拠

◎　ある仁和寺の法師は、なぜ失敗をしたのだろう。

☆　考えられる根拠をたくさんあげよう。

・下調べをしないでいった。→×証拠がない
・極楽寺と高良神社が立派だったので、勝手に独り合点して、これが「石清水八幡宮」と思いこんでしまったから。・
・参拝者がみんな山へ登っていったのに、その理由を尋ねることをしなかったから、

◎ 根拠を古文で確認しながら、グループで共有し合おう。

◎ どうやれば、失敗が防げたか。

◎ この段で兼好法師が伝えたかった「人生訓」をタイトルにしよう。

このタイトルを付けたわけ

☆ 「聴き取りインタビュー」方で、友達が付けたタイトルを聞こう。